

令和4年度 第2回 第3期健康横浜21推進会議 議事録	
日 時	令和5年3月29日（水）18時30分～20時30分
開催場所	横浜市役所 みなと1・2・3
出席者	健康横浜21推進会議委員 19人 健康横浜21関係課長 13人
欠席者	健康横浜21推進会議委員 1人
開催形態	公開（傍聴者1人）
議 題	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 (1) 第3期健康横浜21における目標・指標と行政及び関係機関・団体の取組について (2) 第3期健康横浜21素案骨子（案）について 4 報 告 (1) 健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会の開催状況について (2) 歯科口腔保健に関する取組及び部会の開催状況について (3) 食育に関する取組及び部会・食環境整備検討会の開催状況について (4) 受動喫煙防止対策事業について (5) 令和4年度における健康経営の推進について (6) よこはまウォーキングポイント事業について (7) 横浜市糖尿病重症化予防ネットワーク検討会について 5 その他 今後のスケジュールについて
開 会	（健康福祉局健康安全部 嘉代部長） ただいまより「令和4年度第2回 健康横浜21推進会議」を開催する。本日の会議について、公開とさせていただくこと、及び議事録作成のため、議事内容を録音させていただくことについて、御了解いただくようお願いする。 次に、事務局から定足数について御報告する。本会議は、横浜市附属機関設置条例の規定に基づき、健康横浜21の推進及び評価・策定に関する事務を行う場として設置したものである。 当会議の委員総数は20名で、本日は19名の委員が出席している。健康横浜21推進会議運営要綱第6条第3項の規定に基づき、過半数を満たすため、本会議が成立していることを報告する。
あいさつ	（健康福祉局 佐藤局長） 年度末のお忙しい中お越しいただき、また、日頃より横浜市の健康づくりに御理解御協力をいただき感謝申し上げます。この3月は本会議の委員の改選時期でもある。5年、10年と担当いただいた委員の方もいらっしゃる。改めて感謝申

	<p>し上げる。引き続き委員を継続いただく方には、今後とも忌憚のない御意見をいただきたい。横浜市は「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を目指している。それを実現するためのいくつかの戦略があるが、中でも健康福祉局としては「誰もがいきいきと生涯活躍できるまちづくり」のために日々取り組んでいる。健康横浜21は、市民一人ひとりにとっても横浜市職員の我々にとっても非常に重要な計画である。委員の皆様、団体の皆様と手を携えて横浜市の健康づくりに取り組んでいきたい。限られた時間ではあるが活発な議論をお願い申し上げる。</p>
<p>委員紹介</p>	<p>(健康福祉局健康安全部 嘉代部長)</p> <p>今回をもって退任される委員と、今年度に入って新たに任命された委員の方を御紹介申し上げます。今回で退任となるのは、横浜市スポーツ協会 金子委員、JA横浜 西田委員、また本日は欠席であるが、神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員である。長きにわたり、感謝申し上げます。</p> <p>新たに任命された委員は、横浜市食品衛生協会 須貝委員、全国健康保険協会神奈川支部 田島委員、テレビ神奈川 福原委員、横浜市食生活等改善推進員協議会 米山委員である。以上4名の委員の皆様、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>これからの進行を豊福会長にお願いする。</p>
<p>議 事</p>	<p>議事(1) 第3期健康横浜21における目標・指標と行政及び関係機関・団体の取組について</p> <p>事務局から</p> <p>資料3-1 第3期健康横浜21「目標・指標と取組の検討(3/29時点たたき台修正版)」</p> <p>資料3-2 第3期健康横浜21「目標・指標と取組の検討(11/30時点たたき台)」からの主な修正点</p> <p>資料3-3 第3期健康横浜21素案 第3章市民の行動目標と取組 構成イメージについて(検討中)</p> <p>資料3-4 健康横浜21推進会議 関係機関・団体の取組一覧について説明</p> <p>(豊福会長)</p> <p>説明があった内容について議論したい。評価策定部会には私が部会長として参加しているため、まず私から意見させていただく。資料3-1のスライド13については、横浜市立大学の先生方の協力を得て、記載がある様々な疾病の予防の重要性を課題としてまとめ、評価指標や分析方法を定めた。</p> <p>また、スライド15の「取組を推進する10の視点」は、今後力を入れて取り組んでいく視点をまとめている。ライフコースアプローチや格差対策なども触れている。まずは、同じく評価策定部会に参加されている佐藤委員に、スライド15の「取組を推進する10の視点」について、また担当分野に関してなど意見をお聞きしたい。</p> <p>(佐藤委員)</p>

取組を推進する10の視点では①の「将来を見据えた健康づくり」が一番重要ではないかと自分は思っている。ライフステージごとに分けて把握する方法は課題抽出や目標数値などが捉えやすい面もあるが、オーラルフレイル・フレイル予防や健康寿命の延伸のためには、高齢になってから、またはその手前の中年期になってから取り組むのでは遅い。生まれる前の妊娠期から、妊婦に対しての啓発が重要と考える。生涯を通じた保健の重要性を踏まえると①は今回の目玉であり、一丁目一番地として取り組んでいくものと考えている。

(豊福会長)

続いて、第3期計画から新たに取り入れることに焦点を当てて、議論していきたい。第2期計画では「喫煙」と「飲酒」をまとめてともに取り組んでいたが、今回は「喫煙」と「飲酒」を独立させ目標・取組を検討している。スライド58には環境づくりの目標と取組についてもまとめられている。子どもを喫煙や飲酒のリスクから守る取組について、意見を伺いたい。

(長谷委員)

神奈川県では全国初となる受動喫煙防止条例が制定されている。しかし、徐々に飲食店での管理などが緩くなってきている印象がある。タバコが吸える店が多いことを実感している。神奈川県は店内の広さで規定しているが、規定があると緩くもなりやすい。この条例はがん対策の一環から始まっている。引き続き強化して取り組んでいく。「タバコの害を学ぶ・吸い始めない」については、子どもたちにきちんと教育すれば、将来タバコを吸わない世代が育つ。そのためには学校医が禁煙について指導していくことが重要と考え、学校での指導実施の促しを行っている。

「禁煙にチャレンジ」については、喫煙率は下がってきているが頭打ちになってきている状況にある。新型コロナウイルス感染症は呼吸器疾患のため、禁煙を推進するチャンスである。自分は禁煙外来にも力を入れて取り組んでいる。禁煙外来実施の施設基準はそこまで厳しくないため、できるだけ多くの医療機関に禁煙外来に取り組んでほしい。自分の所属する学会では、禁煙に取り組むための冊子も販売している。

(須貝委員)

長谷委員より飲食店の禁煙・受動喫煙対策について指摘があった。食品衛生協会としても飲食店等に対して引き続き啓発をしていきたい。

(島田委員)

食に関しては弁当コンクールを行っており食に関心を持ってもらうよう取り組んでいる。飲酒・喫煙に関しては親の家庭での生活習慣の影響が大きく、危険性の周知をしていく必要がある。

(豊福会長)

喫煙や飲酒を大人が楽しんでいる姿を普段から目の当たりにしていると、子どもにはなかなか危険性は伝わりにくい。社会全体で子どもを飲酒や喫煙から遠ざける意識が重要。次に、スライド34からの「運動」については「日常の中で

『こまめに』動く」という新しい目標が入っているが、どうか。

(金子委員)

スポーツ庁発行のウェブマガジンで座りすぎの記事を読んだが、日本人の座位時間は世界最長で7時間という。こまめな運動がなぜ体にいいかというと、よく動くほど代謝が上がりエネルギーを使うため太らない。太っていると体が重く動きづらくなり悪循環でどんどん動かなくなる。日常の中で億劫がらずに動いていくことが重要である。一番簡単なのは立ち上がることである。地域の懇談会で、コロナで外出自粛をしていた高齢者が動くのが億劫になってしまっている現状があると聞いた。体を動かす、外に誘いだす仕掛けを作っていく必要があると感じた。また、先ほど「生まれる前から健康へのアプローチは重要」との意見を聞き感銘を受けた。運動についても、子どものうちから運動の楽しさを知っていることがその先の健康のためには重要になる。体を動かすことの大切さについて、親世代と一緒にになって子ども達に伝えていきたいと思っている。

(豊福会長)

スライド42からの「暮らしの備え」について議論したい。横浜にはいろいろな地域がある。避難場所を利用する地域もあれば自宅での避難が中心になる地域もあるかと思う。いざという時の準備が必要である。

(瀬戸委員)

前回は「もしも・まさかへの備え」というネーミングであったが、検討の結果「暮らしの備え」になり、とても伝わりやすくなったと思う。ここに解熱鎮痛剤、体温計等の記載があるが、コロナの際も、解熱鎮痛剤が品薄になり、本当に必要な人に届かない事態となってしまった。品薄になってくると買い集めてしまう傾向はよくある。救急用品は備えておいてほしい。また、軽度な健康管理は自分で責任を持つ、セルフメディケーションを常に勧めている。災害の時は横浜市と横浜市医師会と連携し巡回診療に行く。常に各区数件の薬局に急性疾患と慢性疾患の薬品を備蓄している。期限を切らさないように管理し、医師の診療の元、必要な薬剤を届けられるようにしている。

(豊福会長)

スライド44についてみていく。ヒートショックに関しては暑い時も寒い時も起こり得る。知識を持つことが重要である。ロコモ予防やフレイル予防について地域で活動をしている立場でどうか。

(蟹澤委員)

保健活動推進員の活動では、壮年期から高齢期の市民を中心に声掛けしている。フレイルやロコモに陥る前に予防の重要性に気付いてもらうことが重要だと思っている。健康を考える仲間として後押しをしていく立場で地域に働きかけている。体力や握力のチェック、手軽にできる運動の推進、食事の重要性や口腔ケアの啓発など行っている。

(米山委員)

フレイル予防に関する啓発は自分たちも行っている。年齢が上がり高齢期になってくると食が細くなる。それによりたんぱく質の摂取が減り、低栄養に陥りやすい。たんぱく質の摂取を呼び掛けている。

(豊福会長)

スライド53の「糖尿病等の疾患」についてはどうか。

(高塚委員)

神奈川県国民健康保険連合会では令和2年度から、神奈川県がはじめた、かながわ糖尿病未病改善モデル事業において、本会のKDBシステムという医療・介護・健診のデータを紐づけたシステムを活用し、国保の過去5年間の特定健診の受診の有無とレセプトデータの請求の有無の4つのエリアに分けて抽出して、特定健診で糖尿病基準に該当しているのに受診をしていない、糖尿病腎症の診断を受けているのに翌年度の受診履歴がないなどが分かるリストを県内市町村へ神奈川県を通して提供している。治療中断者・未治療者の減少に活用いただければと思う。

(堤委員)

糖尿病などの疾患についての課題は我々も重要視している。健診を受ける、早く発見、早期介入が重要と思っている。健診を受けてもらう、指導を受けてもらうまでは健康保険組合では義務化されており、被保険者の受診率は90%を超えている。課題は被扶養者にいかに受診してもらうかで、そこに注力している。徐々にではあるが受診率は上がっている。また、特定保健指導の実施率が思うように伸びず、実施率を上げる取組を行っている。リスクのある人をいかに抽出し早期介入するかが重要と考えている。横浜市国保では重症化予防プログラムもあると思うが、現状すべての健康保険組合が重症化予防ができているわけではない。連合会として、少しでも多くの健康保険組合にそのような取組まで実施してもらえるように、民間の事業者の提供する重症化予防プログラムを導入し、なるべく健康保険組合に経費負担がかからないようにして取組を広げようとしている。治療継続に関してはどこまで貢献できるかわからないが、まずは重症化予防を次のステップで取り組みたい部分として考えている。

(豊福会長)

重症化予防について、すでに横浜市でも取り組まれていると思うが事務局から意見はあるか。

(事務局)

疾病の重症化予防事業については、横浜市各区で国民健康保険加入者からリスクの高い人を抽出し、個別指導・集団指導につなげている。保険者の取組が聞けたので、連携できるのであれば協力して行っていきたい。

(豊福会長)

スライド55「食環境づくり」の目標と取組についてはどうか。

(長谷川利希子委員)

今までは啓発が主だった。これからは仕掛けづくりに取り組み、自然と健康に

なれる環境を作ることができるように考えている。健康にいいものを自分で選ぶ力も重要だが、健康にいいものを自然と手に取ることができる環境を作る必要があると考えている。そのためには様々な担い手が必要となってくる。関係機関同士の協力が重要と考える。また、取組を推進する10の視点のうちの⑥「誰も取り残さない健康支援」、健康格差対策についても推進していきたい。特に経済格差は食事にも影響があり健康の格差につながる。子ども食堂や朝食を欠食する子に提供できるものはないかなど考えていきたい。環境づくりは非常に重要な取組だと思う。

(吉田委員)

中食の推進や、バランスよい食事を推進していきたい。ただ、横浜市民はLDLコレステロールの平均が高いので食べ過ぎはよくない。塩分もそうだが、脂質やエネルギーを適正に摂っていただく必要がある。普段たくさん食べるような人が自然に手に取るものでも健康につながるものになるように、検討していきたい。

(西田委員)

食環境についてはお話いただいた通りだと思う。各世代によって食生活に関する意識は変わってくると思う。栄養バランスに配慮した食生活のためには家庭での食が重要だと思う。JAは地産地消を進めている。また、旬の食材を使った親子向けの料理教室を行い、食べることの大切さを伝えている。神奈川新聞やTVK、FM横浜など様々な企業と連携して広めていくことが食環境づくりにつながると考えている。

(豊福会長)

体を作るという意味で食事は非常に重要だと思う。各分野で一丸となって取り組んでいきたい。次にスライド60、61「職場における健康づくり」について、どうか。

(斎藤委員)

国レベルでも大きな問題となっているのが、行動に起因する災害、行動災害で、腰痛や転倒などがある。どれぐらい多いかというと、令和4年で4日以上のお休みを必要とする労災の件数が1550件弱ある。うち半分ほどは新型コロナウイルス感染症によるものという特殊事情があるが、コロナを除いた中で、転倒が全体の27%程度、腰痛は16%と非常にウエイトが高い。以前は労災と言えば建設業における墜落災害や製造業における機械災害などが多い印象があったと思うが、年々行動に起因する災害が増えている。5か年ごとに労働災害防止推進計画を立てている。そのうちの一つの大きな柱が行動災害になっている。対策の問題点としては、機械の巻き込まれや建設現場の墜落などと比べて対策が複雑で難しいことと、業界として安全対策の意識がまだ不十分ということがある。いかに意識啓発をしていくかが重要と考えている。転倒災害というと軽い災害に聞こえると思うが、労働者も高齢化しているため、骨折しやすく、1か月以上休む必要があることもある。リスクの認識を促していく必要がある。色々な

業界を巻き込みながら取り組んでいきたい。

(田島委員)

スライド60について、現状・課題に中小企業の事業者の健診受診率の低さが挙げられている。例えば従業員が2人のお店などは日中、健診に行ったら仕事ができないとの声がよく聞かれていたが、現在は健康経営の観点から、健診を受けずに従業員の片方が倒れたら経営が立ち行かなくなると説明できる。協会けんぽ神奈川支部としても健康経営の取組(協会けんぽの「かながわ健康企業宣言」と横浜市の「横浜健康経営認証制度」)を引き続き市と連携して進めていきたい。また、スライド61について、「地域・職域連携」というところでいつも悩んでしまうのだが、職場と市民という関係について、職場と住まいの自治体が同じ方ももちろんいるが、横浜で勤めているが住まいが都内、あるいはその逆などの場合も多いと思う。そのようなケースも対象に含むことがうまく伝わるような書き方にするといいと感じた。

(豊福会長)

全体を通して、健康づくりに取り組むためにはプロモーションも重要と話が出た。マスコミの立場でどうか。

(長谷川由希委員)

がん検診の啓発や病気の予防についての周知などしている。しかしどうしても新聞の読者は中高年層が多い。先ほど、妊娠期から健康づくりには取り組む必要があるというお話があった。新聞の読者層である中高年世代はもともと関心の強い人が多い。妊婦などを含め、比較的健康への関心の薄い若い世代にどのようにアプローチしたらいいか考えていきたい。

(福原委員)

プロモーションとしては、このところかなりのスピードで各ライフステージの行動パターンや生活習慣が変わってきている。テレビという媒体にこだわらず、どういう形で幅広い世代に伝えていくかに力を入れ、YouTubeやSNS、有料配信などの活用を始めている。また、コロナ禍ではなかなかできなかった外に出て行うイベントやよこはまマラソンに関わる番組づくりなど実施している。また、「はじめてばこ」という、神奈川県内の子どもが生まれた家庭に無料でプレゼントを届ける取組を3年行っている。それを機に、子育て世代に向けたメルマガ配信やイベント実施などで情報提供を行う、プッシュ式の周知・啓発を行っている。全世代をまとめたプロモーションは難しい。セグメントして働きかけ、全体の課題解決を目指すプロモーションが重要になってきている。

(豊福会長)

事務局の報告への異議はないということによろしいか。

(一同)

異議なし。

(事務局)

貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。この方向で引き続き検討を進めてい

	<p>くので、ご協力をお願いしたい。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>異議がないようなので次の議事に移る。</p>
	<p>議事(2) 第3期健康横浜21素案骨子(案)について</p> <p>事務局から資料4 第3期健康横浜21における素案骨子(案)について説明</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>意見・質問はあるか。評価策定検討部会の委員でもある田口副会長に意見を伺いたい。</p> <p>(田口副会長)</p> <p>評価策定委員会ではフレームワークについて議論した。今回各団体の既に取り組まれていることや今後やってきたい取組についての御発言を聞き、この計画がうまくできていることを実感した。骨子案については、3頁の体系図を下から見ていくと、取組内容から、直接成果、中間成果、最終成果につながるようにロジックを組み立てていることが今回の骨子の特徴である。大学と連携し、評価の仕組みも作られている。2頁(3)に最終評価の課題と方向性が挙がっており、計画に反映されている。今回新たに設定された取組を推進する10の視点は、ライフコースアプローチやデジタル化、環境についてなど触れられている。ここも重要であり妥当であると思う。体系図の頂点にある「共に取り組む生涯を通じた健康づくり」という横浜市の前提がしっかりしているのでぶれずに取り組んでいけると感じた。</p>
	<p>(豊福会長)</p>
	<p>案の内容は了承ということでよろしいか。</p>
	<p>(一同)</p>
	<p>異議なし。</p>
	<p>(豊福会長)</p>
	<p>異議がないようなので次第4の報告に移る。その前に佐藤委員が先に帰られるので先に意見をもらおう。</p>
	<p>(佐藤委員)</p>
	<p>歯科口腔保健推進検討部会については資料6の通り。2の歯科口腔保健検討部会の開催状況についての1回目と2回目の主な意見について見ていただきたい。今までは歯科に特化した検討部会というものはなかったが、条例ができたことにより、市民・専門家共に口腔内の健康を守る責務が発生したと考えている。先程申し上げたように、妊婦のうちから、口腔内の健康は考えていただきたい。実はミルクのあげ方や離乳食のあげ方、抱っこの仕方でも歯並びは変わってくる。関係団体の皆様にも啓発の協力をお願いしたい。妊婦歯科健診は100%受けていただき、0歳児から歯科健診を受けてほしい。また、歯科健診の啓発は非常に重要であるが、実際は健診だけでは意味がなく、健診後の方が重要である。その後受診し、しっかり噛むことができ、セルフケアで健康を保つことができる状態を継続できていることが大切である。歯科健診は口腔がんの</p>

	<p>検診にもなる。早いうちに見つければ95%治る。内視鏡が必要ながん検診などと比べて手軽に発見できる。また、高齢期のたんぱく質の不足で低栄養につながるという話があったが、たんぱく質の摂取には奥歯が重要になる。奥歯がないとオーラルフレイルが始まりフレイルにつながる。また、大学生以上になると学校の歯科健診はなくなる。その世代にいかに関心を持っていくかも重要と考えている。</p>
	<p>報告（１）健康横浜 2 1 計画評価及び次期計画策定検討部会の開催状況について 事務局より資料 5 令和 4 年度「第 2 期健康横浜 2 1 計画評価及び次期計画策定検討部会」の開催状況について 説明</p>
	<p>報告（２）歯科口腔保健に関する取組及び部会の開催状況について 事務局より資料 6 歯科口腔保健に関する令和 4 年度の取組及び歯科口腔保健推進検討部会の開催状況について 説明</p>
	<p>報告（３）食育に関する取組及び部会・食環境整備検討部会の開催状況について 事務局より資料 7 食育に関する令和 4 年度の取組及び食育推進検討部会・食環境整備検討部会の開催状況について</p>
	<p>報告（４）受動喫煙防止対策事業について 事務局より資料 8 受動喫煙防止対策事業について 説明</p>
	<p>報告（５）令和 4 年度における健康経営の推進について 事務局より資料 9 令和 4 年度における健康経営の推進について</p>
	<p>報告（６）よこはまウォーキングポイント事業について 事務局より資料 10 よこはまウォーキングポイント事業について 説明</p>
	<p>報告（７）横浜市糖尿病重症化予防ネットワーク検討会について 医療局がん・疾病対策課より資料 11 横浜市糖尿病重症化予防ネットワーク検討会 経過報告 について説明</p>
	<p>（豊福会長） 意見・質問はあるか。私から一点質問であるが、食育について、ロゴマークに魚のデザインがあるがなぜ魚だけなのか。</p> <p>（事務局） デザイン上の都合で、街並みから海までを 1 本の線で繋げ、主食・主菜・副菜を表現するうえで海のところに魚を配置したため、主菜は肉ではなく魚となっている。</p> <p>（豊福会長） 畜産農家への配慮が必要ではないかと思い確認した。また、よこはまウォーキングポイント事業について対象者の年齢層などについてももう少し詳しく聞きたい。</p> <p>（事務局） 対象としては歩数計の利用者は高齢者が多い。アプリは 65 歳未満が多いが 70 代前半も増えてきている。</p> <p>（豊福会長）</p>

	<p>今回は年次推移も見せてほしい。健康経営の報告は利用者が増えてきていることが分かりやすかった。</p> <p>(田口副会長)</p> <p>糖尿病重症化予防事業ネットワーク検討会が今年度終了とのことだったが、今後について聞きたい。</p> <p>(医療局がん・疾病対策課 古賀課長)</p> <p>検討会は終了であるが、来年度から18区のうち8区で取組をスタートさせる。検討会を行いながら2区をモデル区として先行で取組を実施し、その中で、糖尿病患者を支えていくための医療や介護の連携をどうしたらいいか検討してきた。取組の内容としては4の(1)から(4)になるが、まず(1)地域でだれが他職種の窓口になるかを見つけ、協議組織の設置をしていただき、地域に合った糖尿病患者を支える仕組み作りを協議内の中で考えていただく。(2)糖尿病患者をどのように支えていくかの資源探しを行い、作成した地域資源リストを各区で活用していただく。(3)と(4)他職種連携研修や事例の検討などを通して仕組み作りの検討を進めていくといった、区レベルの取組と検討が今後進んでいく。</p> <p>(田口副会長)</p> <p>ネットワークは作るだけでは動かない。メンテナンスが重要だと思っている。十分に考えられていることが分かった。</p>
<p>その他</p>	<p>その他 今後のスケジュールについて</p> <p>事務局から資料12 第3期健康横浜21策定スケジュール(案)について説明</p>
<p>資料</p>	<p>資料1 健康横浜21推進会議 委員名簿</p> <p>資料2 健康横浜21推進会議運営要綱</p> <p>資料3-1 第3期健康横浜21「目標・指標と取組の検討(3/29時点たたき台修正版)」</p> <p>資料3-2 第3期健康横浜21「目標・指標と取組の検討(11/30時点たたき台)」からの主な修正点</p> <p>資料3-3 第3期健康横浜21素案 第3章市民の行動目標と取組 構成イメージについて(検討中)</p> <p>資料3-4 健康横浜21推進会議 関係機関・団体の取組一覧</p> <p>資料4 第3期健康横浜21における素案骨子(案)</p> <p>資料5 令和4年度「第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会」の開催状況について</p> <p>資料6 歯科口腔保健に関する令和4年度取組及び歯科口腔保健推進検討部会の開催状況について</p> <p>資料7 食育に関する令和4年度取組及び食育推進検討部会・食環境整備検討会の開催状況について</p>

資料8	受動喫煙防止対策事業について
資料9	令和4年度における健康経営の推進について
資料10	よこはまウォーキングポイント事業について
資料11	横浜市糖尿病重症化予防ネットワーク検討会 経過報告
資料12	第3期健康横浜21策定スケジュール(案)